

施策評価シート(平成15年度の振り返り、総括)

作成日 平成 17 年 3 月 11 日

施策No.	39	施策名	協働によるまちづくり
主管課名	総務課	主管課長名	増田 宗弘
関係課名	健康増進課、福祉課、農政課、環境課、建設課、生涯学習課、社会体育課、社会福祉協議会事務局		

施策の目的①対象	・市民 ・市民活動団体・自治会等	対象指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		人口	人	65,779		
		市民活動団体数				
		自治会数		74		

施策の目的②意図	市民と行政が一体となったまちづくり活動を行う	成果指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		まちづくり活動に参加している市民の割合	%			調査予定
		社会的に責任のある活動を継続的に行っている団体の数				調査予定
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査による入手	(代)協働によるまちづくり(施策)に対して満足している市民の割合	%	29.7		

成果指標設定の考え方	市民のまちづくり活動への参画度と活動量を成果指標とする。 市民意識調査で把握…(例)あなたほどのような地域・コミュニティ活動に参加していますか 各種団体の実態調査による入手…関係各課で把握 代替指標として、協働によるまちづくり(施策)に対する満足度を使う。(平成16年2月調査)
------------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	行政は住民に対する啓発と参画のきっかけづくりが主たる役割である 住民は地域社会に対する関心を高め、自分の地域は自分でつくるという意識のもとに積極的に活動する。
-------------------------	--

15年度の 評価結果	<p><b>1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)</b></p> <p>本市は自治会活動や公民館活動が盛んであり、市民が積極的にまちづくり活動に参加している。11年度の市民意識調査では、約49%の市民が地域活動に参加していると回答している。平成3年ころからゴミ分別問題をきっかけに地域活動の醸成がなされてきている。地域活動の基盤となる自治会の加入率は88%を超えており、県内でも高い水準にある。行政と市民のパイプ役として74の自治会が果たす役割は大きい。また、真岡市の特徴として、地域の公民館(109館)を中心とした地域活動も歴史がある。</p>
	<p><b>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</b></p> <p>14年度から3か年で総合地域づくり事業を全市的に展開してきている。地域福祉・健康づくり・交通安全・子ども育成などのメニューの中から地域が選んで実施されている。中でも敬老会は従来は市が行ってきたが、15年度から各自治会に移管し、自主企画運営をしている。交通安全推進事業についても多くの自治会で実施された。市長の特別認定事業としては、7自治会が認定を受けて実施された。老人クラブや道路・河川の愛護会による環境美化活動も継続的に行われてきている。農業分野でも行政と農協・自治会が協働で転作推進に取り組んでいる。また、地域の公民館を中心とした地域活動が活発に行われている。環境美化活動として「花いっぱい運動」を地域公民館単位で実施している。</p>
	<p><b>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</b></p> <p>・現状の総合地域づくり活動を定着化し、行政からの補助がなくなっても継続して実施されるようにすることが今後の課題である。協働とは、対等の立場で活動することだが、現状は「市民参加のまちづくり」の段階にある。それを協働のレベルに進化させていく。 ・今後の高齢者の増加に対応し、新たな参画を促す工夫が必要である。活動の継続・発展のためには地域のリーダー育成が急務である。 ・また、地域活動の活性化度合いに地域差がある。地域差を解消するための対策を検討する必要がある。 ・具体的には、総合地域づくり事業については、17年度からメニュー構成の見直しをし、防犯防災についてもメニューに加える。地域活動の継続性を図るために、17年度は特別認定事業については、補助終了後も継続的に実施することを前提にすることとする。</p>